

アジアの現代文芸

MYANMAR

[ミャンマー] ④

ミャンマー 現代短編集 2

အထူးအပါး

南田みどり編訳

財団法人
大同生命国際文化基金

MYANMAR

[ミャンマー] ④

ミャンマー

現代短編集 2 学院図書館

အဝူအဝူ

藏 书 章

南田みどり編訳

財団法人
大同生命国際文化基金

ミャンマー現代短編集 2

南田みどり 編訳

1998年9月30日発行

発行者 近藤祐三

発行所 財団法人 大同生命国際文化基金

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-1

☎06-447-6111

制作協力 日経事業出版社

印刷／精興社・幸印刷 製本／大進堂

©1998 THE DAIDO LIFE FOUNDATION

読者の方へのお願い

お読みになりました感想、当財団へのご要望をお寄せ下さい。

အထူအပါး

日本の読者の皆様へ

マ・パンケツ（訳者ビルマ名）から、ビルマの短編十八編を邦訳して短編集を出すにあたり、序文を依頼されました。そのような格別の機会を私に与えてくれた彼女に感謝して、喜んで一文をたためます。

マ・パンケツが、ビルマ文学から自分がよいと思うものを選んで翻訳した本は、五点になります。それらの作品からは、彼女がビルマ文学愛読者として、次のようなことを日本人に知らせたがっているのかがえます。我々ビルマ人が何を信じるか。どんなふうに考えるか。どのように発言し、行動するか。異民族の奴隷だったビルマ人、独立獲得当初のビルマ人がどんな人生を乗り越えてきたか。田舎に住むビルマ人、町に住むビルマ人、労働者階級のビルマ人、上流階級のビルマ人がどのような生活かなど。だからマ・パンケツは、ビルマ文学の窓を通して見るに値するものを探し出し、日本人に提供する努力をしています。彼女の努力の目的が誠実で、仕事も的確だと私は信じており、彼女の目論見が成功するように祈っています。

民族が民族を理解することは、人間の持つ優しさを促します。ですから、理解は友好を生み出し

ます。友好は平和のための最良の行動でもあります。

この世界ではかつて、国家の繁栄発展のため、一国が他国を侵略しました。そして支配し、搾取して、彼らの国づくりをしました。国力が固まってきたと思えば、軍備をさらに増強し、高性能の武器を装備し、力で牛耳りやすい小国を脅し、侵略しました。威嚇し、占領し、奴隷にし、搾取しました。これは人口と軍事力をふんだんに有する人々の常套手段です。植民地主義なるものもそれなのです。

その後、搾取され奴隷となり抑圧された人々が、国ごとに反乱したり、共闘して反乱するに至って、帝国主義者は植民地を手放し、独立を与えるようになりました。

こうして我も我もと独立を達成すると、「自由競争」という名の「開放経済」と呼ばれる経済原理が声高に叫ばれるようになりました。この原理は、自由に貿易し、売買し、規制を設けないというので、実に自由で視野の広い考え方ではないかと思われました。

しかし、事業をする段になると、金儲けのために活動するのですから、我勝ちに競わねばなりません。そこに資本の力がものを言うようになります。お金が支配するようになります。かつては武器の勝つたものの天下でした。いまや資本金の勝つたものが勝利します。怒りと誇りに替わって欲望が支配するようになるのです。権利は対等でも、同じ力で競えないならば、資本の力による弱肉強食の論理は続くのです。ですから平和と平等の未来が輝けるものだとはいえませんが、

そのような状況において、民族相互の理解と友好は、いつそう必要となっています。

日本とビルマ二国の歴史には、第二次世界大戦中、日本がビルマを侵略し、三年間支配し、その支配にビルマ人が抵抗反乱したという大きな傷痕があります。その当時、三十万人以上の日本兵がビルマに派兵され、帰還したのはわずか十万五千人でした。彼らの帰還の背景にも、ビルマ人が自分自身の飢えや、恐怖や、憂いをかえりみず、仏教徒らしい慈悲・慈愛の心で日本の敗残兵に衣食を分け与え、敵に捕らわれないよう匿ったというエピソードが数多くあります。ビルマ人の誠実な慈愛を受けた日本人は、終生、決してこの出来事を忘れないと聞きます。

ですから、マ・パンケツに一つ提案したいのです。マ・パンケツは日本でビルマ語を教えている教授です。彼女のところにはビルマ語を学んでいる日本の学生が多くいます。この学生たちの手助けで、第二次大戦中にビルマの大地に開いていったビルマの慈悲の花、慈愛の花を日本で追跡して収集し、「大戦中の慈愛の花々」という実話を、日本語とビルマ語、各一冊の本にしてほしいのです。

マ・パンケツが努力している、日本とビルマの理解と友好の花が豊かに開花しますように。

ルードウ・ドー・アマー

ルードウ・ドー・アマーは、一九一五年、マンガレー生まれ。文化、芸術、伝記などノンフィクション作品を中心に、外国小説の翻訳も多数出す長老作家。『ビルマ民衆文化』（土橋泰子訳、新宿書房）の著者。夫はジャーナリストで小説家でもあった『風とともに』（河東田静雄訳、井村文化事業社）『サルウィン川の筏乗り』（同、新宿書房）の故ルードウ・ウー・フラ。本書「蓄音機回しの物語」の作者ニープレーの母であるのみならず、マンガレーの作家たちからも母と慕われている。

メッセージ

「文学高くば民族も立派」というビルマの成句がございます。時代の流れにともない、ビルマ文学の歴史もまた、新しい時代の領域へと歩を踏み入れております。「高邁な文学、栄えある民族」という誉れ高き刻印に、ビルマ文学があずかることを願って、短編・長編小説を幾度となく日本語に翻訳し、日本の読者のもとに供してこられた日本文学研究者、マ・パンケツと南田みどりさんの『ミャンマー現代短編集 2』の登場を、熱烈に歓迎するものであります。「樹皮を見て木質を知る」といわれますように、マ・パンケツの一連の誠実な業績多数からは、マ・パンケツの心の中で、ビルマ文学とビルマ文化がいかに根を下ろし尊重されているかがうかがい知れ、喜びと誇らしきを感じるものであります。

なお、ビルマ国民の生活・人生・思考を文芸書として発行されることにより、一貫して両国の理解の向上に努められ、今回もマ・パンケツの邦訳による、この『ミャンマー現代短編集 2』を刊行されます大同生命国際文化基金担当諸氏に、深く感謝いたしますことを、重ね重ね申し述べる次第であります。

1998 年 7 月 9 日

駐日本国ミャンマー連邦大使 ソウウィン



“ သံအမတ်ကြီး၏သဝဏ်လွှာ ”

“ စာပေမြင့်မူလူမျိုးတင့်မည် ” ဟူသောမြန်မာဆိုရိုးစကားရှိပါသည်။
ခေတ်၏ရေ စီးကြောင်းနှင့်အညီ မြန်မာစာပေသမိုင်းသည်လည်း ခေတ်သစ်နယ်ပယ်သို့
ချဉ်းနင်းဝင်ရောက်ခဲ့ပြီးဖြစ်ပါသည်။ “ မြင့်မားသောစာပေတင့်တယ်သောလူမျိုး ”
ဟုဂုဏ်ယူဝင့်ကြား မှတ်ကျောက် တင်ခံနိုင်ရန်အတွက် မြန်မာဝတ္ထုတိုး ဝတ္ထုရှည်များအား
ကြိမ်ဖန်များစွာ ဂျပန်ဘာသာပြန်ဆိုလျှက် ဂျပန်လူမျိုးစာဖတ်ပရိသတ်တို့၏ ရှေ့မှောက်
သို့ အရောက်ပို့ပေးလေ့ရှိသည်။ ဂျပန်စာပေပညာရှင် မပန်းခက် (ဝါ) မစွတ်မိဒိုရိ
မိနာမိဒါ၏ “ ခေတ်ပေါ်မြန်မာဝတ္ထုတို့ပေါင်းချုပ်-၂ ” ပေါ်ထွက်လာမှုအားလျက်
လှဲနွေးထွေးစွာကြိုဆိုသမျှပြုအပ်ပါသည်။ “ အပွေးမြင်အပင်သီ ” ဆိုသကဲ့သို့
မပန်းခက်၏ အစဉ်အလာကြီးမားသော စေတနာလုပ်ရပ်များက မြန်မာစာပေနှင့်
မြန်မာ့ယဉ်ကျေးမှုကို မပန်းခက်၏ရင်ဝယ်နှလုံးသား၌ မည်၍မည်မျှ အမြစ်တွယ်
တန်ဖိုးထားလျက် ရှိကြောင်း ခန့်မှန်းသုံးသပ်နိုင်ပြီး နှစ်ထောင်းအားရ ဂုဏ်ယူဝမ်း
မြောက် ရပါကြောင်းဖြင့် ဖော်ပြအပ်ပါသည်။

ထို့အပြင် မြန်မာနိုင်ငံသားတို့၏လူနေမှုဘဝ နှင့် တွေးခေါ်မြော်မြင်မှု
များအား စာအုပ်စာပေမှတစ်ဆင့် ဖြန့်ဝေပေးခြင်းဖြင့် နှစ်နိုင်ငံအကြား နားလည်မှု
တိုးမြှင့်သွားရန် ရည်သန်လျက် အစဉ်ကြိုးပမ်းဆောင်ရွက်ခဲ့ပြီး ယခုတစ်ကြိမ်တွင် လည်း
မပန်းခက်၏ ဂျပန်ဘာသာပြန်ဆိုချက်ဖြစ်သည့် အဆိုပါ “ ခေတ်ပေါ် မြန်မာ ဝတ္ထုတို့
ပေါင်းချုပ်-၂ ” အား ထုတ်ဝေဖြန့်ချိသွားဦးမည် အပြည်ပြည်ဆိုင်ရာ ယဉ်ကျေးမှု
ရန်ပုံငွေအဖွဲ့မှ တာဝန်ရှိ ပုဂ္ဂိုလ်များအား အထူးပင်ကျေးဇူးဥပကာရ တင်ရှိပါကြောင်းဖြင့်
ထပ်လောင်းဖော်ပြအပ်ပါသည်။

(စိုးဝင်း)
သံအမတ်ကြီး

ရက်စွဲ ၂၀၂၃ ခုနှစ်၊ ဇူလိုင်လ ၉ ရက်

訳者紹介

南田氏は国立大学に身を置く研究者だ。

研究者の仕事は、客観的なデータや統計が幅をきかす。が、このことがある種の枠をつくり、仕事の仕上がりの幅を狭め、つまらないものを生み出していることに、当の本人たちは気付いていないことが多い。

その点、南田氏はこの枠に掬われる愚行を冒していない。これは私費でミャンマーを訪れ、アウン・サン・スー・チー氏をはじめ、現地の人々との間で、長年にわたって築いた信頼関係を基に研究を続けた結果、手に入れた手法によるものかもしれない。

さて、「東洋はローカルだ」といったこれまでのありようのせいなのか、あるいは三六年にも及ぶ軍事政権支配の故か、ミャンマーの作家の作品を読むチャンスは、一般的に恵まれにくかった。が、世界の情勢も少しずつ変化をみせ、「東洋はローカルだ」といった姿勢を排す傾向がみえはじめたのはよろこばしい。

八九%が仏教徒の国であるミャンマー。輪廻転生のために、「よい行い」を積む国の人々。より

よい生まれかわりを繰り返し涅槃を目指す国の情報は、意識的とはいえ、反自然的な生活を主とする世界、あるいは先進国といわれる国々で求められている「心の癒し」を補う上からも大切となる。ということとは、取りも直さず、南田氏の仕事の重要性を示すこととなる。

南田氏の大同生命国際文化基金による『ミャンマー現代短編集』の翻訳出版も二回目と回を重ねる。

人間の内の奥にあるものを呼び覚ます、それとも人の問い掛けに、答えの一端を与えるためにも、南田氏の仕事は続けられなければならない。

作家 夏樹 葉

目次

日本の読者の皆様へ

ルードウ・ドー・アマー

メッセージ

ソウウイン

訳者紹介

夏樹 葉

第一場 街角で

一頭の馬

15

マウン・ティンスイ

摂氏零度

23

キンパンフニン（ミャウンミヤ）

燃えた巣

37

スーフゲツ

新しい町

44

チョーズワーテツ

第二場 女・子供

小さなエーチャンの告白

59

キンスエーウー

僻地歌

70

キンミヤズイン

注文……恋しがないで

82

メーマウン

マンゴー女

97

マウン・ニョウピヤー

雲間の薔薇

106

マ・ウイン（ミツゲエ）

ジャスミンはいかが

119

ミヤタンテイン

第三場 生きるために

腹は主張する

135

イエーシャン

マイクおやじの私生活

142

ミンヌエーソウ

鶏トリの値段

149

マ・サンダー

富豪と守護神談合す

161

ペーミン

生成流転

167

タンミンアウン

第四場 周縁から

蓄音機回しの物語

181

ニープレー

縁の水滴

191

サウンウィンラッ

クンプワーパラー国の民

201

マウン・トゥエーチュン

訳注

222

解説

255

訳者あとがき

286

著者略歴・訳者略歴

292

既刊本のご案内

295

挿画 樹下龍児

装幀 山崎 登

第一場



街角で

